

**資料1** 教育実習後レポートと参考表

① 教育実習後レポートフォーマット

2015 年度 「教育実習指導」

教育実習後レポート（湘南ひらつかキャンパス）

提出日：2015 年 6 月 26 日（金）（7 月 1 日以降の実習終了者の場合：実習終了後随時）

\_\_\_\_\_（学部・研究科・科目等履修生） \_\_\_\_\_（学科・専攻）  
学籍番号 \_\_\_\_\_ ・ \_\_\_\_\_ 年次・氏名 \_\_\_\_\_

1. 教育実習について感想や意見を述べて下さい。

①学んだこと

②よくできたと思うこと

③もっと力をつける必要があると思うこと

④実習前の準備として大切だと思うこと

⑤実習終了後、大学の担当教員に相談したいこと

## 2. 卒業後の進路について

①教職志望の場合（資格教育課程支援室に教員募集の依頼があった場合の連絡のために）

- ・（公立、私立、どちらでも）
- ・（                      ）都道府県・（                      ）都道府県
- ・（小学校・中学校・高等学校）
- ・（専任・臨時任用教員・非常勤講師）

②教職以外の場合。現時点で決まっていること、わかっている（考えている）こと

## 3. 2015年7月に受験する教員採用試験について

都道府県（政令指定都市名）	学校種	教科	受験番号
	小・中・高		
	小・中・高		
	小・中・高		

## 4. 教職課程に対する要望やアイデア

## ②「もっと力をつける必要があると思うこと」

(資料1①の質問用紙 問1-③の回答, 湘南ひらつかキャンパスの教育実習生35名)

## ～国際経営学科～

**A** 授業力と知識が必要だと思いました。30人近くの生徒を相手に授業をしているのに、自主主導で授業を展開してしまったり、焦ってしまい、生徒への共感賞賛をできなかったり、もっと授業を良くするために勉強しなければならないと感じました。生徒からの質問に対して答えられない場面が何度かありました。また、授業を考えていく上でも様々な知識が必要なので勉強します。

**B** ・担当教科の知識  
・書き順  
・板書のスピード  
・誰にでもわかるように噛みくだいて話ができるようにすること

**C** まずは、教員としての立ち振る舞いや、責任感をつけること。生徒は、私が思っていたよりも、教師をしっかり見ていたので、日頃の行動から変えていく必要がある。また、教師にとっての授業の重要性は大きな割合を占めるので、より分かりやすく生徒が興味を持てる授業を追究していきたい。

## ～情報科学科～

**A** ・早口にならないこと  
・言い忘れに気をつける。  
・生徒から引き出す工夫  
・発問の仕方

授業中、私の方で問いの答えを言うってしまうということがあったので、生徒から引き出す発問をもっと考えていきたい。

**B** コミュニケーション能力が足りていない。実習中ずっと考えていた。実習中の3週間で

ある程度は良くなったがそれでも他人から見れば、まだまだコミュニケーション能力が不足している。だから、今後もっと多くの人とコミュニケーションをとり、たくさん人と話す練習をしなければならない。

**C** ・的確な指示と分かりやすい発問の仕方を身につける。

・時間を使いたいところと、そうでないところを決めて計画通り実行する。

**D** 話し方・声の大きさについて力をつける必要があると感じました。私の授業は声が小さい、メリハリがないと指摘を受けていたので、普段の会話から改善していきたいと考えています。また、授業のペースが遅くて、あまり進まない授業もしてしまいました。時間配分を考え、進めていきたいと思いました。

**E** 私なりの工夫をして毎度授業を行いました。生徒が「わかりやすい」「聞いていたい」と思えるような授業を行えたという、自信を持つことができませんでした。全員が全員、授業を聞く態勢ではないことは承知していたものの、その態勢を変えるためにどのような授業をすれば良いかを3週間という期間では模索することで精一杯でした。決まった形に捕われず、他の様々な方法を試して、その時々合った形を見つける意欲が今まで以上に必要だと感じました。

**F** 生徒に対する理解度です。生徒が数学のどんな場面で躓き、その時どの様な解説をすれば、その障害を取り除いてあげられるのか。生徒の立場に立ち、考え、理解する能力が足りないと感じました。

～数理・物理学科～

A 教材研究をして指導案を作っても実際に授業をしてみると説明不足であったり指示がいまいだったりしてしまうことがあった。特に自分が意図している答えを生徒に言わせたいときの発問は授業前にしっかり考えておく必要があると感じました。

B 授業計画を1回ごとに考えましたが、3回分の授業において、授業同士のつながりが弱く、授業全体としてのストーリーにまとまりがなかったと思います。まとまりのある授業をするためには、授業計画の段階で、この先何を学んでもらい、そのために何を教えるかというところを考えていく必要があると思います。

C 生徒に対する思いやりの気持ちが必要であると思った。生徒に対しての言葉使いが荒い場面があり、フレンドリーで親しみやすいのは良いのだが、教師として生徒に対する言葉の重さをもっと理解しなければならないと思った。また、授業の中で何を学習させたいのかをはっきりさせるための専門性がまだまだ不十分であると実感した。

D 生徒の引きつけ方と発問タイミングがどうしても最後まで安定しなかった。引きつける手段として発問があるのだが、本時の目標に沿わないものを聞いたところで、集中を持続させる意味しか持たず、変な所に集中力を使わせてしまっているため目的とは別のことしか頭に残らないことになる。目的に結びつけるように多くの発問をつくることが未だにできないので、改善したい。

E ・生徒の答えに対し、合っていればいいけれど、間違えたときの対応に慌ててしまうので、落ちついて返答できるようになりたい。  
・どう発問すれば、どういう授業展開をす

れば、生徒が興味をもって取り組んでくれるのか。

F 「数学B」についての理解をもっと深めるべきである。ベクトル方程式の分野で教材研究不足が原因となり、生徒、学校に対して大変失礼な授業をしてしまった。

G ・出来る生徒と出来ない生徒へのそれぞれの対応。数学が得意な生徒に授業をあわせると苦手な生徒がついてこれなくなって授業に参加しなくなってしまうし、苦手な生徒にあわせると得意な生徒は退屈になってしまい参加しなくなってしまう。だからこそ、机間指導の時の個別対応をしっかりしていかなければいけないと思う。

・アクティブラーニングの導入。教師が生徒に教えるというベーシックな授業スタイルとは別に生徒たちが自ら考え知識を発見するような授業スタイルも今後出来るようになって良いと思った。今後この2つの授業スタイルを使い分けて授業が出来るようになることも自分の今後の課題だと思った。

H やはり自分が高校生の頃に受けた授業が基準となっており、若干生徒に答えさせる部分はあっても基本は講義形式の授業を展開していたのだが、研究授業を参観していただいた感想にもあったように、“生徒の活動”を重視した授業を展開しなくてはならないので、「問題の解答・解説」を生徒にさせるなどの活動を組み込む必要がある。またそのような授業を展開するにあたって、生徒の理解度・交友関係などを頭に入れた上で授業を構成することが必要である。

I 授業中に、生徒への質問をあまりしなかったこと、高校ということもあり、あまり、積極的にクラスに行くことがなかったので、生徒とのコミュニケーション能力を身に付けた

いと思った。

**J** 授業の中での発問をもっと工夫する必要があると考えています。もっと生徒の考えを引き出したり、興味をもたせるような発問を考える必要があると思います。

**K** 生徒たちがどのようなミスをするかを予測していく力、またはどのようなミスをするかを発見していく力、発問力等。

### ～化学科～

**A** 今回、生徒との距離感をなかなかつかめず、コミュニケーションをとるのに時間がかかりました。もっと積極的に生徒に声をかけるべきだったと思いました。また、今回体育祭があり、行事に関わることができましたが、何をして良いか分からず、なかなか自分から動くことができませんでした。自ら仕事を見つけ、動けるようにしたいと思いました。勉強面では、時間を気にして授業を行うことが、自分の課題だと思いました。伝えたいことをまとめることの重要性和事前準備の必要性を感じました。

**B** 授業において、時間配分がうまくできなかった。模擬授業を通して訓練していきたい。

**C** 教科指導において、クラスの“できる生徒”“できない生徒”の差を考慮し、全体が理解できる指導が十分にできなかったのも、少しでも多くの生徒が理解し、また、理解した生徒が暇をもて余さないような指導の訓練が必要であると思った。

**D** 今回の実習で一番難しいと感じたことは、生徒たちの反応を見ながら、自然に、時には強引に主発問などにどう結びつけていくかということでした。また、それをしながらしっかり時間配分をして授業をするのが大変でし

た。これは経験を積むのが一番いい方法だと思いますが、授業案などでの生徒の反応を予想するがもつとうまくできれば良いので、本などで、どういう流れになっていくかなどをもっと勉強していきます。

**E** 授業を構築する能力が不足していた。教科書通りにしか授業を進められず、説明すべき内容は考えてあっても、時間不足や緊張で忘れてしまうことが多々あった。この辺についてはもっと練習を重ねていく必要がある。授業の細かい部分において、省略の有無、簡単な復習について、程度がわからなかった。生徒のレベルに合わせた授業・発問を考えることも必要であると思う。

**F** 専門教養の知識をより身につけておく必要があると思った。化学の原理を全て説明できるところまで落としこむ。実際、すべて知るのは難しいが、教科書の範囲は把握する。また、授業は知識を教えるだけではなく、マインドアップのように知識をつなげていくことが面白さに繋がる。一番わかりやすい教え方や計算方法を考えるのはもちろんだが、日常ではどんなものに使われているのか、前の学習からつなげられるものはないかを知っておく必要がある。その他、どこがテストに出やすく、どこが間違いやすいポイントなのかなども知っておく必要があると感じた。

**G** やはり専門知識の不足だと思います。自分の中でうろ覚えになっている箇所が多く、「価電子」と「最外殻電子」の違いであったり、その他似ている意味のものを混合させてしまったことが多かったのも、これからしっかり知識をつけていきます。

**H** 理論の理解や指導教科以外の知識。前者は教える部分の教える立場としての理解度に必要であると感じ、後者は科目の横のつながり

の為に必要であると思った。

～生物科学科～

**A** 実験において、生徒に細かい所の説明ができていないと思いました。例えば、実験でスケッチする場合、スケッチの書き方を説明していなかったために、多くの生徒がスケッチできていなかったことや、接眼ミクロメーターの使い方が分からなかったために、長さを測定できていなかったことなどがありました。分かっているようなことでも説明が必要だと思いました。

**B** 生徒に、今は何を考える時間で何をすべきなのかという事をしっかりと伝えるためには、どの程度具体的な発問や指示をするべきなのか、実践を通して学ぶ必要があると考えています。

## ③「実習前の準備として大切だと思うこと」

(資料1 ①の質問用紙 問1-④の回答, 湘南ひらつかキャンパスの教育実習生35名)

## ～国際経営学科～

A 教科書は学校によって違うので、事前に確認して購入しておくべきです。あとは、授業する単元を確認して、事前に授業の流れや指導案をつくっておいても良いと思います。

B ・教材研究  
・担当教科の知識

C まずは教材研究。実習期間中は、教材研究に時間がかかり過ぎると余裕が無くなり、いっぱいいっぱいの状態で過ごさなければならぬので、楽しさを感じることなく終わってしまう可能性がある。よって、ここをしっかりと取り組めていれば、有意義な実習にすることができる。

## ～情報科学科～

A ・早めに担当する範囲をきいて、工夫をこらした授業への準備を行う。

B 事前に調べておくことが大事。教科に関することはもちろんだが、どんなことでもいいので色々な知識が必要。役に立たないと思っていることでも、生徒によってはそれが役に立つこともある。色々なことを考え、シミュレーションしてみることが大事。そのためには、どんなことでも話題になりそうな話をたくさん知っておくことが必要。

C 事前訪問やオリエンテーションの時に、生徒の様子や授業態度など、できるだけ実習校の情報を先生から伺っておく。

D 実習前に授業の単元が決まっているのであれば、板書計画や授業計画を事前にしていくことで放課後など時間が作れて、部活動にも

参加しやすいと思いました。

E 自分の担当する学年の授業範囲の把握は最低限しておく必要があると感じました。あらかじめ指導案を練っておくことも大事ですが、想像していたような授業は基本的に出来ないため、その時々に対応できる柔軟性が必要だと感じました。

F イメージトレーニングです。板書案や指導案を作るのはもちろん大切と思いますが、自分の行う授業をイメージし、何度も何度も授業の流れを頭の中で繰り返すことが大切であると思います。イメージトレーニングをすることで、改善点も思いつきますし、本番もイメージをしない時と比べてテンポよく進めることが出来ました。

## ～数理・物理学科～

A 教材研究をしっかりと生徒が少しでも興味を持ってくれるようなものを作ったり、理解してもらえるように内容をわかりやすく説明できるようにしておくことが大切だと思います。また、あまり気負いすぎないようにするよう心掛けることも大切だと思います。

B 実習中に教える範囲がわかっているならば、授業計画を作ってしまうほうが良いと思います。そして、授業計画は最初の授業の分だけでなく、できれば3週間で自分が進めるだろうと思うところまで作っておけば、実習中に指導計画を手直ししていだけで済むので授業計画を作っておくことは重要だと思います。

C ・実習校でのオリエンテーションのときに使用する教科書、問題集の確認

・実習を行う内容(授業では何ページから何ページまで担当するのか、担任をするクラスの雰囲気や特徴など)の確認

・授業を行う際の板書計画の作成

**D** あらかじめ実習中に行う自分の担当範囲を教科担当の先生に確認し、大ざっぱに板書案を立てる(授業の流れを軽くメモしておく程度で良い)。また、その教科担当の先生がどのようなスタイルで授業を進めているのかを確認する(教科書を使って流れ通りに行う、教科書は使うが章末問題重視、教科書を使わず問題集重視etc.)。

**E** ・ある程度自分の授業をやる範囲の教科書(資料等)をしっかりと読み込み、問題を解いておく。

**F** ・教師としての心がまえ  
・教材研究

**G** ・たくさん大学で模擬授業の回数を積み重ねておくこと。

教育実習ではとにかく堂々としていないと授業が出来ないと思う。他の大学の実習生は大学の授業で模擬授業を2～3回あるいは1回という人がいて、その人の授業を見に行ったらアタフタ授業をしているのが気になった。

・「教育相談演習」の履修

教育実習中でのコミュニケーション等ですごく役立つスキルが身につくため。

**H** 自分が担当する予定の範囲は教材研究を済ませておくことが大切である。もちろん実習が始まってから、生徒の様子に応じて授業の内容を変更するために教材研究はするのだが、やはり予備知識がないとともに授業ができないためである。また授業外での仕事が多いので、睡眠時間を確保する生活リズムを

作っておく事も必要だと感じた。

**I** 模擬授業をしっかりと行うことで、気持ちも少し楽になる。

**J** 自分の担当する範囲の教材研究をしっかりとすることだと思います。あとは、最初の自己紹介を大切にすること。

**K** 自分が受け持つ教科、範囲を予想でもいいので、予め勉強しておくこと。または板書ノートの作成(実際に、板書を書くことを想定して作成。どういう事に注意して授業するか、生徒がどういうミスをしやすいかをメモ書きすること)

#### ～化学科～

**A** 実習前の準備として大切なのは教材研究も重要ですが、実際の授業を想定した模擬授業で経験を積むことが大切だと思います。特に実験のある授業では、実際は思っているよりも時間がかかるので、どのように授業を進めていくか、自分の中でシミュレーションすることがとても重要だと思います。

**B** 教材研究をすることと、先生の仕事の把握が大切だと考える。実習では、先生の仕事の一部を経験させてもらえるが、一部でもかなりの量があるため、それに備えていく必要があると思う。

**C** 実習の教科指導教員との情報の共有がもっとも大切であると思った。受け持つクラスの規模や担当する単元を把握しておくことで、イメージがもちやすいと思った。

**D** ・理科だったら薬品の取り扱い方の基本をおさえたり、「実験」や「考察」などの必ず使うようなワードのマグネットシートを作っておくと良いと思った。



- ・実習前に少しでも実習の時と同じくらいの生活サイクルを作ると楽だと思う。
- ・実習校の県の教育方針などをしっかり調べておく。

- E** ・教科教育法などで行う模擬授業により、自分で授業を組み立てること。
- ・コミュニケーション能力を養うこと。
- 実習先の担当科目の授業内容の予習。

- F** 自分の教える分野を、大学の内容を含めて勉強しておくことが大切だと思う。より高度なことを知りたい生徒は大学の内容まで質問にくる。(わからなくても、質問に答えよう、という姿勢はもちろん大事) また、事前に担当クラスの生徒の名前はある程度覚えておく。授業を持たないクラスだと、名前を覚える機会がすごく少なくなる。持ち物はバインダーがあると便利。

- G** ある程度学校現場に慣れておくということ。(インターンや、学校ボランティア)

- H** 教材研究や質問への解答の準備。教える事の出来る学力水準は高いため、教材研究は欠かせず、何も知らない状態、あるいはそれに近い状態で生徒が抱く質問は、学ぶ上で重要なものになるだろうと考えた為である。

### ～生物科学科～

- A** 一番は勉強だと思います。単に勉強するのではなく、それが日常生活とどう関わってくるかや今の科学技術のどのようなところで用いられているかなどを知っておくと、説明が楽にそしてわかりやすくなります。

- B** ・教材研究
- ・教材準備(理科ネットワークへの登録等)
  - ・生徒に自分を知ってもらうための、インパクトのある自己紹介づくり

湘南ひらつかキャンパス 教職課程免許取得者及び教職経験者数(1992～2014年度)

2015.9.1

卒業年度	経営学部				理学部				合計	
	国際経営学科		情報科学科		化学科		生物科学科		卒業者数	経験者数
	卒業者数	経験者数	卒業者数	経験者数	卒業者数	経験者数	卒業者数	経験者数		
1992 (H4)	8	1	2	1	6	0	0	0	16	2
1993 (H5)	7	2	2	0	9	1	5	0	23	3
1994 (H6)	4	1	7	4	15	4	10	5	36	14
1995 (H7)	7	2	6	2	13	4	6	1	32	9
1996 (H8)	3	1	6	2	22	8	17	9	48	20
1997 (H9)	6	1	9	4	19	2	19	7	53	14
1998 (H10)	5	0	11	3	17	4	11	4	44	11
1999 (H11)	7	3	9	4	16	7	11	6	43	20
2000 (H12)	9	3	4	1	15	8	7	4	35	16
2001 (H13)	3	2	8	6	14	5	8	1	33	14
2002 (H14)	8	3	8	4	12	3	7	2	35	12
2003 (H15)	13	2	7	4	9	7	4	1	33	14
2004 (H16)	17	4	22	9	14	7	18	2	71	22
2005 (H17)	32	5	23	7	16	7	19	11	90	30
2006 (H18)	24	3	16	3	21	4	22	6	83	16
2007 (H19)	20	7	9	3	16	8	20	7	65	25
2008 (H20)	8	2	13	9	5	3	6	4	32	18
2009 (H21)	9	4	8	7	11	11	13	8	41	30
2010 (H22)	1	0	10	7	9	6	7	4	27	17
2011 (H23)	9	4	14	10	10	8	5	5	38	27
2012 (H24)	1	1	12	10	8	5	7	6	28	22
2013 (H25)	5	3	17	14	13	5	3	2	38	24
2014 (H26)	0	0	13	10	7	3	5	0	25	13
合計	206	54	236	124	297	120	230	95	969	393
%	26%		53%		40%		41%		41%	

\* 経験者数には、正規教員、臨時的任用教員、非常勤職員(講師)を含む。

\* 赴任先の学校種は、小学校、中学校、高等学校を含む。

\* 経験者数は、資格教育課程支援室(旧 教職課程指導室)に本人から連絡のあった数を示す。

\* 本人から連絡のあった時点でデータを更新している。